

# Application for Participation

## Associated Schools Project (ASP) for Promoting International Education

### Outline of the way the Project(s) will be implemented in the institution

(please use extra sheets if necessary)

#### Description of the Project (プロジェクトの概説)

本校では、平成24年度に豊橋人権擁護委員会の支援を受けながら人権の花運動を展開し、一人一鉢による栽培などのさまざまな活動を通して、協力や感謝することの大切さを学び、生命の大切さを実感する中で人権について学習した。また、本校では平成11年より縦割り班(フレンドという)による集団での活動を行ってきた。本校では、上級生が活動の内容を計画し、フレンドと一緒に遊ぶことを年間計画に活動日として位置づけている。また、遠足などの学校行事もフレンドでの活動を取り入れており、これまでに上級生と下級生の交流場面として多くの実績をあげてきている。人権の花運動でも、フレンドでの活動を取り入れることで、従前より行ってきたフレンドのよさをさらに深めたいと考えて実施した。

人権の花運動は、平成25年度から「心の花運動」として発展的な展開を計画している。フレンド活動のよさを生かし、上級生と下級生のつながりを更に堅固にし、学年や学級といった横のつながりだけでなく、縦のつながりでも子どもの生きる世界を広げていきたいと考えている。

一方、授業では「平和」「戦争」「いのち」について関係する教科・領域で継続的な学習を展開している。道徳の時間を中心に理科や生活科で「いのち」の学習を年間計画に関連させて位置づけ、年間を通じて計画的に展開している。また、社会科を中心に「平和」「戦争」に関わる内容を学習し、児童会での「書き損じはがき集め」や「募金活動」といった活動に発展させている。この学習は、6年生でユネスコ協会の協力のもと、「寺子屋授業」を行い、学習のまとめと位置づけている。

#### Objectives of the Project (プロジェクトの目的)

本校では、ESDへの取り組みの中心を人権と平和教育とする。本校の児童は、フレンド活動として異学年交流や同学年交流を続けてきている。異学年交流では、グループのリーダーとして上級生が活動のためのさまざまな計画をたてたり、グループとしての活動がスムーズにいくよう、下級生に対してしっかり指導したりする姿が見られる。このように、本校の児童には、フレンド活動を通して他者に対する思いやりや、任された役割に対しての責任感が育ってきている。この活動と日々の授業や学校教育でのさまざまな取り組みを組み合わせ、以下の目標を設定する。

##### (1) 異年齢交流活動を通して

- ・上学年の子どもが下学年の子どもを教える場、下学年の子どもが上学年の子どもから教わる場を設定することで、集団の中での自分の立場や役割を自覚させ、リーダーシップやフォロアーシップを育てる。(キャリア教育)

- ・集団生活でのさまざまな活動を通して、自分だけで達成できないことがやれるという達成感を味わわせる。（キャリア教育）
- ・直面したさまざまな問題を解決しようとする気持ちを育てる。（キャリア教育）
- ・他者に対する思いやりの気持ちを育てる。（人権教育）
- ・お年寄りや地域の方との交流を通して、敬う心を育てる。（人権教育）
- ・数多くの大人たちの支えのなかで自分達は育っていることを実感し、その人達に感謝する気持ちを育む。（人権教育）

### (2) 動植物の飼育・栽培活動を通して

- ・教科での活動を含めた動物、植物の飼育や栽培活動を通して、「いのち」を大切にする心を育てたり、「いのち」を育てるという「責任感」を育てたりする。（人権教育・平和教育）

### (3) 日々の教育活動を通して

- ・「いのち」「おもいやり」などを道徳の授業を中心に学ぶことで、自分と自分以外の命を大切に、他者との関わり方や自分の生き方について考える心を育てる。（人権教育）
- ・総合的な学習で、校区の歴史を学ぶ。校区の歴史に登場する人物の行動や判断を学ぶなかで、その人物のまわりの人々に対する「思いやり」や「平和」への願いを学ぶ。（人権教育・平和教育）
- ・「平和」「戦争」に関わる教材の学習を通して、「他者への思いやり」「平和の大切さ」について考える。（人権教育・平和教育）
- ・募金や寄付、ボランティアなど他者との関わりの中で平和や人権を理解する活動を児童会などが推進することで、「他者への思いやり」や「平和の大切さ」などの気持ちを育てる。（人権教育・平和教育）

## Execution (プロジェクトの実施)

(e.g. through a specially designed course, through an existing course(s) or as an extracurricular activity)

プロジェクトの目標を達成するために、上記（1）から（3）のそれぞれの活動で以下の実践を行う。子どもの年齢や発達段階に応じた実践を計画し、子どもの心の段階的な育ちを期待する。

### (1) 異年齢交流活動を通して

- ・フレンド活動：毎週木曜日の昼休みの時間に行う。上級生が内容を計画して、フレンド班で遊ぶ。
- ・フレンド手つなぎ遠足：フレンド班の中でペア（1年生と6年生、2年生と5年生、3年生と4年生）を決めて、2学年が一緒に遠足に行く。



フレンド活動

- ・フレンド清掃：フレンド班によってそうじを行う。
- ・感謝の会：クラブ活動の講師や交通安全の立ち番など、お世話になった方を招待して感謝する会



フレンド手つなぎ遠足

(2) 動植物の飼育・栽培活動を通して(教科学習での活動を含む。その場合、並行して『いのち』や『責任感』を育てる)という目標も設定する。)

- ・1年：あさがお・さつまいも(生活科として)
- ・2年：さつまいも・各種野菜・各種昆虫(生活科として)
- ・3年：各種昆虫・各種野菜(理科として)・うさぎ(学年の飼育活動として)
- ・4年：ツルレイシ(理科として)・うさぎ(学年の飼育活動として)
- ・5年：米(総合的な学習として)・めだか(理科として)
- ・6年：じゃがいも(理科として)



フレンド班での栽培

(3) 日々の教育活動を通して

2年：生活科「大きくなったね」(自分の誕生から今までの成長を振り返る)

4年：総合的な学習「2分の1 成人式」(今までの成長を振り返り、親に感謝し、将来の夢を考える)

5年：総合的な学習「武士をやめて百姓になった鋤柄百度右衛門」「1848年に、図書館を作った羽田野敬雄」(校区史に登場する偉人の行動や判断を学習し、「他者への思いやり」や「平和の大切さ」について学ぶ)

6年：社会科「長く続いた戦争と人々の暮らし」「世界の中の日本」

社会科「寺子屋授業」(ユネスコ協会の方を講師に迎え、戦争についての学習をする)

総合的な学習「未来を見つめて」(思い出・感謝・自分の夢についてまとめる)



寺子屋授業

- ・道徳の授業 1年生から6年生までのすべての学年で「いのち」に関わる教材で年間数回の授業を行う。
- ・人権教室 3年生から6年生までの学年で、人権擁護委員会の方を講師に迎えて、人権について学習する。

- ・「書き損じはがき集め」や「募金活動」 児童会が中心となって活動し、活動の趣旨や目的を学習する。活動に参加することで自分がその一端を担う自覚を育てる。

### **Type of materials to be used (使用する教材)**

- ・「明るい心」(愛知県道徳副教材) (財)愛知県教育振興会
- ・「種をまこう」(全国人権擁護委員連合会編集) (財)人権擁護協力会
- ・「かがやくとよはし」 平成23年4月1日発行  
編集 豊橋市立小学校社会科副読本研修委員会  
発行 豊橋市教育委員会

### **Is there any type of evaluation to examine the effects of the project on students' comprehension and attitudes? (プロジェクトに対する生徒の理解と姿勢の評価方法)**

指導教師は、普段の生活の中で子どもの態度・姿勢を観察し、目標達成に関係するそれぞれの実践での評価と合わせて子どもに総合的な心情・態度が育っているか評価する。

- ・それぞれの実践の計画段階での子どもの様子や言動から把握する。
- ・実際の活動時の子どもの様子、行動から把握する。
- ・それぞれの実践の成果物としてのまとめ、また実践の感想やふりかえりカードなどへの記述内容から把握する。

*On behalf of my institution, I apply for participation in the UNESCO Associated Schools Project and give the assurance that this institution will make an active contribution to the Project, as outlined above, for a minimum period of two years. At the end of every year, I shall submit a report of the Project to the ASP National Co-ordinator of my country.*

(本学校を代表して、ユネスコASPの参加申請をし、少なくとも2年間は上記概要にそってASPに貢献する活動を行うことを確約します。また、毎年ASPコーディネーター(※日本の場合は日本ユネスコ国内委員会)に活動のレポートを提出します。)

6 Mar. 2013

Date (日付)

Principal's name (校長名 (※直筆))

Position, (役職)

Institution's name (学校名)